

社会民主主義
フォーラム

全国
通信

No.19

2021 年
10 月 14 日

〒102-0083

東京都千代田区麹町 1-6-9

DIK 麹町ビル 704 号室

TEL : 03-6272-8135

FAX : 03-6272-8136

Mail : forum-cho@iaa.itkeeper.ne.jp

変えよう。人と命に 寄り添う政治へ

本日10月14日衆議院が解散されました。10月19日公示、31日投開票の日程で総選挙が行われます。立憲民主党を始め野党は「安倍政治」を継承する岸田内閣を倒し、命と暮らしを最優先する政治への転換を目指し選挙闘争をたたかいます。社民フォーラムにとっては初めての国政選挙です。各選挙区における擁立（統一）候補の勝利を勝ち取り、政権交代とともに社会民主主義の政治や政策の実現を図りましょう。あらためて今回総選挙の意義と争点をふまえ、私たち社民フォーラムの課題を提起します。

1 総選挙の意義と争点

(1) 軽んじられてきた人と命

コロナ禍は医療・福祉体制の脆弱さとどまらず、雇用や教育・保育など人と命に寄り添う政治がいかに軽んじられてきたかを如実に示しました。夏の第5波では責任放棄に等しい「自宅放置」が「政策」としてうち出されるに至りました。

まさに自公政権の無責任さを象徴する「政策」でした。この1年間「安心と安全」との言葉だけを繰り返し、実効ある施策が取り組まれてこなかったことが大きな原因です。コロナ対策は感染症そのものに加え、雇用不安や生活困窮への対策など弱者や国民に寄り添う姿勢と政策から再構築しなければなりません。

(2) 新しい「新しい資本主義」

岸田首相は経済政策として「新しい資本主義」を提唱しました。しかし6月に岸田氏が立ち上げた「新たな資本主義を創る議員連盟」の最高顧問は安倍元首相や麻生副総理などが名を連ねています。所信表明では新自由主義の弊害を指摘しましたが、格差を拡大させてきたアベノミクスや自公政権がこれを推進してきたことへの反省はありませんでした。

「成長と分配」で所得を上げ、格差を是正し中間層を守ると繰り返しますが、具体策がないどころかあくまでも成長が前提というスタンスです。「分配や中間層」をめぐる立憲民主党の政策との違いが分かりにくいとの指摘があります。しかし例えば金融所得課税は来年度の税制改革から除かれるなど、その実現は早々と見送られ事実上棚上げされてしまいました。こ



【枝野代表の代表質問】

のように違いは明確です。

(3) 後退する「信頼と共感」の政治

骨抜きになるのは経済政策だけではありません。総裁選や所信表明では「丁寧な説明」と「信頼と共感」を掲げましたが、「森友学園」や「桜を見る会」そして河井氏への選挙資金問題など国民の疑念や怒りには何一つ応えようとはしていません。

質問を受けても「調査済み」「進行中」と繰り返すのみで、隠ぺい、改ざん、忖度と言われる「安倍政治」を検証する姿勢はなく言及さえしようとはしません。総裁選では自らこうした政治の現実を「民主主義の危機」と訴えましたが、所信表明ではこの表現はなくなり、一般論としての「丁寧で寛容な政治」を強調するだけでした。岸田首相は政治姿勢も大きく後退させており、まさに政治不信を助長する「民主主義の危機」を自ら作り出しています。

(4) 「まっとうな政治」へ政権交代を

このように岸田内閣の政策や改革の方向、そして政

治姿勢も当初から大きく後退し骨抜きにされてきました。競争と自己責任を煽り、格差と貧困を押しつける旧来の政治が継承されようとしています。そもそも「成長と分配の好循環」とは安倍元首相が使ったスローガンです。

岸田内閣とは「安倍政治」の継承という範囲内で存在を許された内閣ではないでしょうか。力んで改革を叫んできましたが、出来上がった内閣と政策を見ると「安倍政治」そのものだと言わざるを得ません。そのため各種世論調査でも内閣支持率は高くありません。一日も早くこうした政治を終わらせなければなりません。そのためには総選挙では、命と暮らしを最優先にする「まっとうな政治」への転換、政権交代が求められています。こうした意義と争点を自覚し全力を挙げたたいでしょう。

2 総選挙における私たちの課題

(1) 意識的に居場所と活躍の場の確保を

私たちは昨年来各県において社民フォーラム結成と立憲民主党への合流を進め、まもなく一年が経過しようとしています。地域の党組織のあり方や党員制度など党活動を進める上での環境変化や活動スタイルの違いにとまどいや不安を抱えたメンバーも少なからずいました。

諸活動を通して克服されてきた課題もありますが国政選挙は初めての経験であり、社民党時代に私たちが担い取り組んできた選挙闘争の進め方などと異なっていることも確かです。それだけに具体的な選挙闘争へのかかわりの中で一人ひとりの「居場所」と任務を明らかにして、活動と活躍の場を意識的に作っていくことが課題となります。

(2) 後援会や労働組合などの組織固めを

立憲民主党への入党や社民フォーラムへの結集は、一人ひとりにとって新しい選択であり新たな政治活動への挑戦でもありました。とりわけ合流した自治体議員にとってはこの「選択と挑戦」を支持者の皆さんに理解していただかなければなりません。一人ひとりの地域や議会での活動はこれまでとは変わりませんが、何故「選択と挑戦」を決意したのか、そしてどのように暮らしや政治を良くしていくのかなど、丁寧に説明し支持者の皆さんの理解と支持の拡大を図っていきましょう。

現在内閣支持率は高くありませんが、立憲民主党や野党の支持率も伸び悩んでいます。こうした情勢下で

は低投票率も危惧されるだけに、選挙戦の中では自らの後援会、支援団体や労働組合などへの意識的な働きかけと組織固めが何よりも必要となります。

(3) 信頼と期待勝ち取り活動の前進を

私たちのメンバーの多くが立憲民主党

の党員として選挙戦をたたかいます。社民フォーラムとしては立憲民主党を中心に立憲野党の前進と社民主義の政策や理念の拡大に向けてたたかいます。政権交代を勝ち取るため、メンバー一人ひとりが全国の選挙区でこのたたかいの一翼を担うことになります。

一連の取り組みの中で社民フォーラムへの信頼と期待を獲得すること、そして立憲民主党の地域組織などの充実と発展の展望をつかみ取ることが課題となります。選挙は以前から所属していた自治体議員の方々との共同の取り組みとなります。また当然新たな労働組合との接点も広がり、活動を共にする機会も多くなります。こうした「場」と「結びつき」を大切に今後活動につなげていくことが課題です。選挙闘争の中で党内外の信頼と期待を勝ち取り党の前進、発展を目指しましょう。

(4) 意識的に候補者づくりを進めよう

来年には参議院選挙、再来年には統一自治体議員選挙がたたかわれます。今後の選挙闘争をたたかう候補者の発掘、擁立を進めていくことも大切な課題です。社民主義の理念や政策の充実・実現を志し、社民フォーラムの今後の活動を担う議員（候補者）を作り育てていかなければなりません。

総選挙の中では自治体議員のみならず私たち一人ひとりが「候補者の発掘」という課題を自覚して取り組んでいきましょう。そのためには何よりも各選挙区での勝利が大きな力となります。こうした目的意識を持って総選挙をたたかうことが課題です。

投開票までわずか2週間余りの短期決戦です。吉川はじめ衆議院議員（大分2区）、山本ほまる予定候補（島根2区）を始め、全候補者の必勝目指して奮闘しましょう。

